

企業にとっての“研究開発”とは

取締役執行役員 R&D 統括センター長 河原 敏朗



電気興業の5Gへの取り組みを加速すべくワイヤレス研究所が2019年に設立されて2年、2021年には新たに未来研究所が設立され新規事業創出に向けて活動を開始しました。会社としては70周年の節目を越え、さらなる発展に向け“研究開発”の重要性が増してきていると感じています。そこで、改めて企業にとっての“研究開発”について考えてみたいと思います。

まず、“研究”と“開発”を分けるのではなく、“研究開発”という言葉在意図的に使っていると思っています。企業の研究開発活動はこの両者の側面を一定割合で持っていて、開発の割合が高いテーマについても、優位性を求める解決すべき課題（Research Problem）の設定が必要だと考えます。

研究開発の課題設定においては、3つの要素を意識することが重要です。解決すべき課題（Must）、今の自分たちで解決できる課題（Can）、探求心からくる解決したい課題（Want）、この3要素が課題設定において意識されなければ、結果としてCanとWantに引きずられた課題設定となることもあります。Mustがまずあり、Canができなければそれをどう補いつつ、Wantと折り合いをつけるかということを考える行動が、企業の研究開発では重要です。

解決すべき課題（Must）の設定について、企業の研究開発で意識すべきことは何でしょう。企業にとっての研究開発の目的は、新たなValueを創造することにあります。Valueに関するビジネスモデルとしては、“Create”、“Deliver”、“Capture”の3要素が重要です。価値を創造（Create）し、それを顧客に届け（Deliver）、それによって企業としての利益を得る（Capture）までが成り立ってこそ、企業にとっての“研究開発”です。

電気興業の70周年を越えての新たな発展に向けて、Deliver Value, Capture Valueまで意識したMust Problem設定による研究開発を進めて参りたいと思います。